



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 日本外科宝函 1929, 6(1)

ISSUE DATE:

1929-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200344>

RIGHT:

ARCHIV
FÜR
JAPANISCHE CHIRURGIE

VI BAND 1929

昭和
四年

日本
外科
寶
函

第
六
卷

INOKO-ITO-VEREIN

KYOTO

日本外科寶函第六卷

原著總目次

上行性腎臟傳染ニ關スル實驗的研究

下村一郎(一)

「オプソニン」產生ヲ指標トセル黃色葡萄狀球菌生・

煮兩免疫元ノ差別。附、微量抗體立證法

第一報、抗原量〇・五瓏及ビ一・〇瓏ノ影響

富田正來(三九)

「オプソニン」產生ヲ指標トセル黃色葡萄狀球菌生・

煮兩免疫元ノ差別。附、微量抗體立證法

第二報、抗原量二・〇瓏及ビ三・〇瓏ノ影響

富田正來(五)

「オプソニン」產生ヲ指標トセル黃色葡萄狀球菌生・

煮兩免疫元ノ差別。附、微量抗體立證法

第三報、抗原量四・〇瓏及ビ五・〇瓏ノ影響及ビ全篇ノ總括

富田正來(七一)

普通加熱淋菌「ワクチン」中ニ含有セラレタル免疫

阻止物質ノ立證

第一報、抗淋菌「オプソニン」產生ノ阻害

平田卓二(九三)

普通加熱淋菌「ワクチン」中ニ含有セラレタル免疫

阻止物質ノ立證

第二報、抗淋菌増容素產生ノ阻害

平田卓二(二九)

普通加熱淋菌「ワクチン」中ニ含有セラレタル免疫阻止物質ノ立證

第三報、抗淋菌凝集素產生ノ阻害

平田卓二(二九)

普通加熱淋菌「ワクチン」中ニ含有セラレタル免疫

阻止物質ノ立證

第四報、傳研製腸窒扶斯菌「ワクチン」ヲ以テノ特殊凝集素產生ノ阻害

平田卓二(二五七)

普通加熱淋菌「ワクチン」中ニ含有セラレタル免疫

阻止物質ノ立證

第五報、傳研製腸窒扶斯菌「ワクチン」ヲ以テノ抗腸窒扶斯菌「オプソニン」產生ノ阻害

平田卓二(二九)

膿胸患者ノ膿汁ニ含有セラレタル「イムペチン」ノ

立證。附、炎症病理學上ノ新タナル認識

第一報、雙球菌性膿ヲ以テノ檢査成績

廣瀨研之(二七)

膿胸患者ノ膿汁ニ含有セラレタル「イムペチン」ノ

立證。附、炎症病理學上ノ新タナル認識

第二報、連鎖狀球菌及ビ雙球菌性膿ヲ以テノ檢査成績

廣瀨研之(二九)

膿胸患者ノ膿汁ニ含有セラレタル「イムペチン」ノ

立證。附、炎症病理學上ノ新タナル認識

第三報、黃色葡萄狀球菌性膿ヲ以テノ檢査成績 廣瀨研之(三五)

膿胸患者ノ膿汁ニ含有セラレタル「イムペチン」ノ

立證。附、炎症病理學上ノ新ナル認識

第四報、結核菌性膿ヲ以テノ検査成績

廣瀬 研之(三三)

實驗的細菌性動物膿胸膿ハ「イムペヂン」ヲ含有スルヤ

廣瀬 研之(三三)

實驗的非細菌性動物膿胸膿ハ「インペヂン」ヲ含有スルヤ

(非細菌性膿ト細菌性膿トノ生物學的差別)

廣瀬 研之(四〇)

排膿後死腔ヲ遺殘セル儘ニテ治療セシメタル各種膿胸。附、膿胸ノ新治療方針

廣瀬 研之(四八)

日本人ノ足蹠深在動脈

喜多 豪(四七)

後脛骨動脈下端及ビ内・外足蹠動脈ノ神經ニ對スル位置

喜多 豪(四九)

細菌類脂體ノ免疫學的意義

第一報、黃色葡萄狀球菌ノ脫脂菌及ビ正常菌ヲ以テノ抗體(凝集素「オプソニン」)產生ノ研究

富田 正來(四九七)

細菌類脂體ノ免疫學的意義

第二報、肺炎双球菌ノ脫脂菌並ニ正常菌ヲ以テノ凝集素及ビ「オプソニン」產生ノ研究

富田 正來(五三)

大網膜癒着ニ關スル實驗的研究

下村 一郎(五四五)

日本人骨盤内臟器ノ局所解剖學的研究(承前)

千葉 忠恕(五〇)

副腎皮質ノ機能ニ關スル研究(第一回報告)

近藤 藤平(六四三)

腸「チフス」菌體ノ注射ニ依ル特殊凝集素產生ニ及ボス葡萄狀球菌生・煮濾液ノ影響ニ就テ

澤田 文治(六八九)

膝蓋腱反射ハ眞ノ反射ナリヤ

淺海 吾市(七三)

膝蓋腱反射ノ支配機能ニ關スル實驗的研究

第一回報告、大網皮質ニ於ケル腱反射抑制作用存在ノ疑義

淺海 吾市(七三)

副腎皮質ノ機能ニ關スル研究(第二回報告)

近藤 藤平(八〇五)

腦髓ノ循環血量並ニ酸素需要量ニ就テ

吉益 爲則(八三)

腦髓ノ循環血量並ニ酸素需要量ニ及ボス藥物ノ影響ニ就テ

吉益 爲則(八五)

煮沸免疫元トシテハ上澄液ト濾過液ト何レガ優秀ナリヤ。附、腸室扶斯菌煮沸免疫元最小粒子ノ大サ

猪木 隆三(八七五)

腸室扶斯菌煮沸免疫元粒子ノ大サニ就テ

猪木 隆三(九〇八)

肘關節外傷ニ關スル研究

其一、本邦人肘關節「レントゲン」解剖學ト其ノ臨床的意義

西郷 一恵(九三)

細菌性抗原ニ對スル「レントゲン」線ノ作用ニ就テ

宇野俊治(九七)

膝蓋腱反射ノ支配機能ニ關スル實驗的研究

第二回報告、腦脊髓系統ノ種々ナル部位ニ於ケル切斷ガ腱反射ニ

及ボス影響ニ就テ

淺海吾市(九二)

膝蓋腱反射ノ支配機能ニ關スル實驗的研究

第三回報告、小腦破壊ニ因ル腱反射ノ變化ニ就テ

淺海吾市(九八)

膝蓋腱反射ノ支配機能ニ關スル實驗的研究

第四回報告、前庭迷路破壊ニ由ル腱反射ノ變化ニ就テ

淺海吾市(一〇三)

膝蓋腱反射ノ支配機能ニ關スル實驗的研究

第五回報告、腹部交換神經節狀索ト腱反射トノ關係ニ就テ

淺海吾市(一〇四)

膝蓋腱反射ノ支配機能ニ關スル實驗的研究

第六回報告、予等ノ全實驗成績ヲ基礎トセル諸種疾患ニ於ケル腱

反射ノ臨床的批判

淺海吾市(一〇五)

骨折治癒時ニ於ケル生化學的研究(第一回報告)

骨折治癒時ニ於ケル血清並ニ假骨内「カルシウム」及ビ燐含有量ノ

消長並ニ其ノ相互關係ニ就テ

大野一信(一一二)

抗黃色葡萄狀球菌「トロビン」作用ニ及ボス微生物

生・煮兩濾液ノ影響(第一報)

同名水溶性抗原ヲ以テノ實驗

青柳安誠(一二七)

副腎皮質ノ機能ニ關スル實驗的研究(第三回報告)

近藤藤平(一二七)

副腎皮質ノ機能ニ關スル實驗的研究(第四回報告)

近藤藤平(一二六)

容量的マイニツケ氏微毒濁濁反應(M.T.R.)ノ結合

型式。附、倍數法則ノ意義

玉置辨吉(一二六)

橫隔膜神經燃除ノ肺循環ニ及ボス影響ニ就テノ實

驗的研究

小山田豐(一二七)

橫隔膜神經燃除ノ呼吸性瓦斯交換ニ及ボス影響ニ

就テノ實驗的研究

小山田豐(一二五)

家鷄粘液肉腫ノ生物學的特殊性ニ就テ

松本彰(一二五)

日本人骨盤内臟器ノ局所解剖學的研究(承前)

千葉忠恕(一二三)

抗元(沈澱元)ハ如何ナル程度ニ陶土濾過器ニヨリ

テ阻止セラルルヤ

玉置辨吉(一二二)

抗黃色葡萄狀球菌「トロビン」作用ニ及ボス微生物

生・煮兩濾液ノ影響(第二報)

青柳安誠(一二四)

異名水溶性抗原ヲ以テノ實驗

青柳安誠(一二四)

抗黃色葡萄狀球菌「トロビン」作用ニ及ボス微生物

生・煮兩濾液ノ影響(第三報)

青柳安誠(一二六)

非細菌性蛋白體抗原ヲ以テノ實驗

青柳安誠(一二六)

臨牀總目次

人體胃腸管内ノ毛塊ニ就テ 原 守 藏(一九五)
結核性膿胸ニ對スル肋膜外胸廓成形術ニ就テ

骨膿瘍(臨牀講義)

出血性腎炎(臨牀講義)

若年者ノ胃癌ニ就テ

化骨不全症ニ就テ

濟南事變ニ於ケル戰傷患者ニ就テ(其一)

横隔膜下膿瘍ニ就テ

惡性腫瘍ノ臍ニ於ケル發生

胃癌ト誤診セラレタル結核症ニ就テ

濟南事變ニ於ケル戰傷患者ニ就テ(其二)

陰囊水腫。附、壓迫示界法(臨牀講義)鳥 瀉 隆 三(七五)
尿中「クレアチニン」含有量測定ノ臨牀的意義ニ就テ

前編、健康體ニ於ケル尿中「クレアチニン」排泄量ニ就テ

尿中「クレアチニン」含有量測定ノ臨牀的意義ニ就テ 濱 良 三(一〇六)

後編、諸種疾患ニ於ケル尿中「クレアチニン」排泄量ニ就テ

濱 良 三(一〇七)

濟南事變ニ於ケル戰傷患者ニ就テ(其三)

村上 德 治(一〇八)

濟南事變ニ於ケル戰傷患者ニ就テ(其四)

村上 德 治(一一五)

尿中「クレアチニン」含有量測定ノ臨牀的意義ニ就テ

(承前)

前編、健康體ニ於ケル尿中「クレアチニン」排泄量ニ就テ

濱 良 三(一二〇)

尿中「クレアチニン」含有量測定ノ臨牀的意義ニ就テ

(承前)

後編、諸種疾患ニ於ケル尿中「クレアチニン」排泄量ニ就テ

濱 良 三(一二六)

濟南事變ニ於ケル戰傷患者ニ就テ(其五)

村上 德 治(一二五)

骨膿瘍手術後ノ死腔ノ一新治療法ニ就テ

由 茅 二 五 四(一二五)

雜錄總目次

第二十七回近畿外科集談會漫語	(二六四)
外科雜誌抄讀會	(二六八)
歐米視察談	(六三六)
第三十回日本外科學會駁評	(七九五)
外科雜誌抄讀會	(八〇〇)
第二十八回近畿外科集談會日程	(八〇一)
鳥瀉教授御渡歐	(八〇二)
哭先師伊藤隼三博士	(八〇三)
故伊藤先生ノ思出デ話	(一〇八)
外科雜誌抄讀會	(一〇九)
第八回國際外科學會參列記事(第一回報告)	(一四七)
故伊藤先生ノ思出デ話	(一四九)
第八回國際外科學會參列記事(第二回報告)	(一五三)
鳥瀉教授御通信	(一五七)
第二十九回近畿外科集談會演題	(一九七)

○本誌は毎年一月一日、及三月、五月、七月、九月、十一月、の二十日に發行す

○原稿は歐文、和文何れにてもよし。和文原著には歐文表題及び必ず外國文抄録を添附せられたく、歐文原著には和文表題及び必ず和文抄録を添附せられたし。

○原稿の用語中、固有名词はすべて固有の文字を使用せられたく、又センチメートルは厘を、グラムは瓦を、立方センチメートルは蚝を使用せられたし。

原稿中の挿圖、曲線等は必ず原稿紙以外に更に別紙として墨汁又は製圖用インクにて書かれたし。歐文は成るべくタイプライターを使用せられたし。

○原稿は印刷して二十頁迄は無代なるも、それ以上は一頁につき、實費に準じて金五圓也以内を申受く。又附屬別表等の印刷はその實費を申受く。二〇頁以上の原稿にても、これを一回二十頁宛に分割して掲載する事を承諾せらるる場合は無代とす。

原稿の發表は到着順によるも、急を要せらるる向は、特別掲載料として一頁につき金五圓也以内の實費を申受け直ちに發表致すべし。

○執筆者に於て、別刷御希望の方は、御寄稿と同時に特に附言せられたく、五十部迄は無代贈呈致すべきも、それ以上は實費を申受く

○投稿用紙は、なるべく、本誌専用原稿用紙を使用せられたく、御入用の節は御申越次第送呈す。

○原稿は京都帝國大學整形外科教室、伊藤教授宛、御送附下されたし。

電話 上二九九七番
振替大阪一七二七七番